演目の説明

板蓋宮（いたぶきのみや）

　聖徳太子一族なき後、蘇我入鹿ら一族は横暴を極めます。中大兄皇子と中臣鎌足は謀り事をめぐらせ、蘇我入鹿を大極殿「板蓋宮」へ閉じ込めますが、蘇我入鹿は郎女に救い出されます。その後、中大兄皇子と中臣鎌足は宮廷の儀式の最中に板蓋宮で蘇我氏に戦いをのぞむストーリーです。

　この作品は平成になり、伝統的な神楽の舞台芸術化を目指して創作された演目の１つです。

見どころ

　蘇我入鹿暗殺という日本の教科書には必ず書かれる「大化の改新」前夜の物語です。切り落とされた蘇我入鹿の首が中大兄皇子たちを襲ってくるなど度肝を抜かれる演出が楽しめます。